

# 第6章 肢体不自由教育部門 IV課程の研究

## 第6章

### わかくす部門（肢体不自由教育部門） IV課程の研究

#### 1 研究の方法

一年次（平成30年度）は、各教科等を合わせた指導「生活単元学習」について、各単元において扱う各教科の内容の整理と見直しを、小学部から高等部教職員の縦割りグループで行い、年間指導計画の再編成を行った。また、単元別指導計画表の作成を通して、各単元の目標及び評価を各教科の「育成を目指す資質・能力」の三つの柱で整理し、授業反省を基に、次年度の年間指導計画を大きく見直すことができた。そして、単元別指導計画表の蓄積を基に、本校IV課程に在籍する児童生徒が「生活単元学習」において、12年間で知的障害特別支援学校の各教科（以下、知的教科）の小学部1～3段階と中学部の一部の内容を扱っていることを整理した。また、教科等横断的な視点として、「卒業後の進路・生活を見通した必要な力一覧表」の作成を行った。

二年次（令和元年度）は、各教科等を合わせた指導の中の「主に国語科を扱う単元」について、「年間指導計画」と「単元別指導計画表」に基づいた授業実践を行い、日々の授業と授業評価によってその妥当性の検証を行った。また、小学部と高等部から一授業ずつ研究授業を行い、「育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標・学習内容・評価の設定は妥当か」「卒業後の生活・進路を見通した必要な力の各部段階で育てたい力に向かう授業か」という視点で、授業研究を行った。そして教育課程と年間指導計画を、小学部と中学部は教科別の指導として、高等部は各教科等を合わせた指導として編成し、研究の3年目へとつなげた。

三年次（令和2年度）は、単元別指導計画表を活用し、授業評価を次の授業、次の単元、次年度の教育課程・年間指導計画につなげるという、カリキュラム・マネジメント（よりよい授業づくり）の好循環を構築することを目的として研究を進めることとした。

そのために、本校の教職員から「学習指導要領の内容を、初期発達段階の児童生徒にどのように学ばせるか」「今行っている授業は、他の部とどうつながるか」「高等部を卒業するまでに、どのような力をつけたらよいか」という悩みが特に多く挙がった。そこで、今年度は算数・数学科を取り上げ、単元別指導計画表を用いてIV課程全学級が指導実践を行い、お互いの授業をビデオで参観し、授業研究を行うことで、「児童生徒にどのように学ばせるか」「12年間でどのような力をつけるか」という課題を小学部から高等部までの教職員全員で検討することとした。

#### 〈研究の方向性〉

単元別指導計画表を活用した算数・数学科の研究授業、授業研究を通して「指導時数」「育成すべき三つの柱に沿った目標、内容、評価」「見方・考え方に基づく主体的・対話的で深い学びにつながる手立て」「各部段階で身に付けたい力」の観点で、次年度につながる授業評価を行う。また、小学部から高等部までの教職員が一同に介して教育課程と年間指導計画を見直すことで、「児童生徒の12年間の学びを見通した教育課程・年間指導計画の編成」をする。

2 研究の経過  
(令和2年度)

|        |  |
|--------|--|
| 4・5月   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度の研究と今年度の研究計画について共通理解</li> <li>○単元別指導計画表と単元別指導計画表ファイルの活用について教務部・研究部より提案</li> <li>○児童生徒の実態把握</li> </ul>   |
| 6・7月   | <ul style="list-style-type: none"> <li>【授業研究①小学部3年生算数科 ②4・5年生算数科】</li> <li>○単元別指導計画表の活用について<br/>(小学部で育てたい力と目標設定を中心に)</li> <li>【授業研究③中学部1・2年生数学科】</li> <li>○「数量の基礎」「図形」に着目した、各部で扱う内容について</li> </ul>   |
| 8月     | <ul style="list-style-type: none"> <li>【授業研究④小学部6年生算数科 ⑤小学部1年生算数科】</li> <li>○単元別指導計画表の活用について<br/>(育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った目標設定と評価について)</li> <li>○次年度の年間指導計画の見直し(各部で扱う内容について)</li> </ul>                  |
| 9・10月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>【授業研究⑥高等部1・2・3年生生活単元学習】</li> <li>○算数・数学科における各部で育てたい力について</li> <li>【授業研究⑦小学部4・5年生算数科 ⑧高等部1・2・3年生生活単元学習】</li> <li>○小学部から高等部までの縦のつながりから見る教育課程表・年間指導計画</li> </ul> |
| 11・12月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○算数・数学科の12年間の内容の整理(教育課程表・年間指導計画編成)</li> <li>○研究のまとめ</li> </ul>  |

3 研究の実際

(1) 単元別指導計画表を活用した研究授業と授業研究

【授業研究①小学部3年生算数科 ②小学部4・5年生算数科  
④小学部6年生算数科 ⑤小学部1年生算数科】

協議の柱  
単元別指導計画表の活用について  
「小学部で育てたい力」と「育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った目標設定と評価」

成果

- 対象物の感触の差がはっきりしており、どのような感触を学ばせたいのかが明確だった。教科書に出てくる感触の中から内容を絞って取り上げ、対象的な二つの感触に触れさせるようにした。
- 感触に言葉を添えて伝えていることが良かった。
- 短い時間で、具体物の感触への気付きが成長している。
- 目標達成のために、教師間で共通理解がなされていた。
- 子供が興味をもちやすい教材の選定がされていた。視覚的な弱さがある児童も気付いていた。
- 評価の視点の文章表現は分かりやすい。
- 感触を頼りに形の違いについて気付きが見られていた。
- 積み重ねができてきている高学年の評価として良かった。

## 課題

- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の住み分けへの悩み。表出の少ない児童の反応をどの部分で評価するか。どれも表出の様子（表情、手の動き、視線）は同じになる。  
→「気付く」を書き分けると良いのではないか。「物の有無に気付く」：（知・技）、「素材自体の形に気付く」：（思・判・表）

|              |  |
|--------------|--|
| 知識・技能        | : 具体物に気付き、受け入れる。物の形に気付く。提示された物を対象物として捉える力、感触や形への気付き→表情や視線での評価  |
| 思考力・判断力・表現力  | : 自分から具体物に関わろうとする。「さっきと違う」ことに気付く。「これは何」と探る探索行動、「さっきとは違うのか」と思考するような表情、形の違いを捉えるための考えるような動き、物の形の違いに応じた触れ方 |
| 学びに向かう力・人間性等 | : 好きなものを選んで関わる「自ら」しようとする姿。関心をもって関わろうとする姿   |

- この学習がこの先どの学びにつながるのかをきちんと見据えることが大事ではないか。数量の基礎だが、見方・考え方を見るとこの先は図形へとつながる学習。
- 「育てたい力」については、昨年度の単元別指導計画表に掲載されたものを採用するのか。  
→昨年度の研究で各教科に割り振られたものを参考にする。
- 「見方・考え方」と児童の様子とのつながりが少し分かりにくい。書き方が統一されていないため、これでいいのか、授業への落とし込み方が分からない。
- ずっと同じものを触れていると慣れてくる→「気付き」をどこまでで目標達成とするか。
- 育てたい力の「選ぶ」は、難しいところがあるが、高等部につなげていくことを考えると、小学部から様々なものを体験し、快・不快を表出することを学習していくことで選択へつながるのではないか。
- 「好きなものを選ぶ授業」になる。後半の7時間でどう「図形」の内容に結びつけるのか。後の展開を考えておくと、図形としての見通しが立てやすいのではないか。
- 単元別指導計画表について、単元を13時間で作らないと、題材ごとだと何を学ばせたいのか分からない。しかし全部書くのは難しさがある。
- 単純な丸、三角を扱うと、活動が単調になりやすく、玩具で遊ぶと興味をもつが、そのものの形への気付きは伝わりにくい。どうするか。
- 比べるよりも「同じものを見る」が分かりやすい児童もいるのではないか。
- 自分の好きなものを選ぶという点は、卒業後を見据えてとても大切な力になってくる。「思・判・表」の目標や評価の中に入れてきてもよいのではないだろうか。
- 教育課程（年間指導計画）の単元の順番を改めて考える必要がある。「図形」が年度の始めにきているけれども、まずは「数量の基礎」を抑えてから展開してもよいのではないか。

## 【授業研究③中学部1・2年生数学科】

### 協議の柱

各部で扱う内容について「数量の基礎」「図形」

## 成果

- 音を手立てに迫視ができるようにし、教材を工夫することで、視覚的な困難さのある生徒が主体的に学習することができていた。
- 教材に興味をもたせることで、生徒が具体物によく手を伸ばすことができていた。
- 操作の面で、小学部で学習していることよりもさらに上の段階を学習することができていた。

## 課題

- 「数量の基礎」として目標が立てられていたが、「図形」として、丸や四角の形の違いや形の特徴に気付く学習として単元を構成してもよかったのではないか。
- 図形として学習するのならば、丸と四角の違い等、形に着目させる授業としてもよい。手立ても「丸は〇〇だね」など形に注目させるようなものに変ってくる。「操作」も何をねらいにするのか、丸は転がる、四角は積み重ねる等、明確に書くといいのではないか。

- 形の違いや特徴を捉えるのであれば、丸と四角の物の対比をさせると違いが分かってよい。
- 段階の違う児童生徒がいるときの目標設定についての記載の仕方について共通理解が必要ではないか。
- 小学部、中学部の内容でスモールステップができるような指導計画にしていけないだろうか。
- 「図形」と「数量」では活動は似ていても、目指すゴールは違う。将来のゴールなどを書くことで何を学ぶか、何のために学ぶか目標をはっきりとする。
- 「数量の基礎」と「図形」は、どちらにも追視が入っており、明確に分けられないので、授業者が意図的に「何につながる授業をするのか」を意識しておくことが大切である。今回の単元では、単元目標そのものは、「数量の基礎」「図形」どちらとも捉えることができる。見方・考え方や学習内容レベルになると、図形につながる学習であることが明らかになってくる。

#### 【授業研究⑥高等部1・2・3年生生活単元学習】

##### 協議の柱

小学部・中学部で学習したことがどのように発展しているか。

##### 成果

- 学びに向かう力、人間性等は、算数で学んだことを学習や生活に生かす態度である。単発の場面だが、目盛りを見る、量りに入れる、同じところに貼る活動で見られたのは、「見る力」「動きに気付く力」である。できているのは、これまでの学習の積み重ねがあったからではないか。
- 高等部では、小・中学部で学んできたことを実際に近い場面で発揮することが確認できた。12年間の内容をどう捉えて年間指導計画にしたかを共有することが大切である。12年間を、「分かる・理解する」からいろんな場面で「発揮する」という学びの道筋が見えてきた。

##### 課題

- 課題作業学習の帯で計画がされている時間とのつながり。一年間の学習をどのように社会体験学習でいきる力にしていくのか、社会体験学習で学んだことを年間の指導にどうつなげていくか。(算数・数学科の視点で見たときに)
- 単元目標は、小学部算数科1段階(数量の基礎)。職業・家庭科と合わせた指導となると難しさがある。高等部では、今までできたこと、つけた力を生かすことが大切になってくる。今回の授業は1時間だけなので、算数としての評価は難しい。
- 評価については、発達の初期段階の児童生徒は、各教科で立てた目標に対して、表れる様相として同じ姿になることも多く、きっちりと観点として分けて評価することが難しいという面もあるのではないか。

#### (2) 今年度の教育課程及び年間指導計画における課題の整理

授業研究を重ねていく中で、「現在学習していることが、この先どのように発展していくのか」「これまでどのような学習を積み重ねて今があるのか」という児童生徒の12年間を見据えた上での年間指導計画を編成する必要性が見えてきた。そこで、小学部1年生から高等部3年生までの年間指導計画の算数・数学科の指導内容を縦に並べ、相互のつながりを確認する作業を通して、これまでの成果や課題を明らかにした。(資料1参照)

##### 成果

- 感触から入って形へつなげる単元中の題材の並びは、児童生徒の学びの順序に寄り添っていて良い。
- 「測定」については、三学期に移動して指導することにして、図形に着目させる授業にしたというところは、とても良かった。児童生徒も形への気付きが見られていた。

##### 課題

- 「図形」「測定」など何の内容かが分かるように年間指導計画に記載するようにはどうか。
- 年間指導計画に、各単元で何の内容(指導要領)を扱うのかを記載することで、小学部から中学部、高等部の学びの連続性が生まれるのではないか。
- 「くらべる」ことは手立てとしてとても有効だが、「くらべよう」という単元名では、測定なのかという印象があった。「もののかたち」「いろいろなかたち」などはどうか。

- IV課程で、高等部までで身に付けさせたい力を見極めて、12年間でどう育てていくかを考える必要がある。IV課程でどこまで達成させたいかモデルを考えてから指導内容を散りばめる作業が必要になるのでは。
- 年間の流れで考えるのか、小学部6年間を通して考えるのか、複式で学習することを見越した教育課程を考える必要があるのか。
- 小学部・中学部で積み重ねてきた学習を、卒業後の生活と結び付けていくための高等部では、どのようにこれまでの学習を定着させていくかが大切である。
- 小低学年の「ころがれころがれ」、小高学年「操作しよう」は学習指導要領からというよりも、学習到達度チェックリストの項目から設定しているような単元名と内容である。
- 「数量の基礎」の「ものともとの対応」、「測定」に関しては、高等部までの筋道が分からない。
- 小低学年の「数量の基礎」が、「図形」と「数量」につながっていく。小高学年の「図形」は中学部の「数量の基礎」に、高等部の「作業学習」「朝の会（天気）」等につながる。中学部は「数量の基礎」になっているが、「図形」も内容として挙げてはどうか。
- 小、中学部の「測定」は、高等部の「作業学習」「調理」等につながっている。  
→これまでの学習を踏まえながら、算数・数学科でつけてきた力を、卒業後の生活に向けて生活の中に般化していく上で、「作業学習」は中心となる学習である。

### (3) IV課程における児童生徒の実態についての共通理解

IV課程に在籍する児童生徒の実態は、学習指導要領の小学部1段階の初期段階から2段階の内容を理解できる段階までというように幅が広い。また、1段階の内容も幅が広いので、1段階の中でも初期段階を理解することを目標とする児童生徒も多く在籍している。そこで、年間指導計画の中で扱う内容については、主に学習指導要領小学部1段階の内容をスタンダードとして検討を進めることとした。2段階までの内容を学ぶ児童生徒については、教えるべき内容がスタンダードで不足する場合は、+αの内容表を準備することとした。(資料3参照)

### (4) 算数/数学科における各部段階で育てたい力について

12年間分の年間指導計画を作成する前に、各部でどのような力をつけていくかを明らかにし、内容を各部に振り分けていくことが必要と考えた。

まずは、算数/数学において卒業後までにIV課程の児童生徒にどのような力をつけていくかを協議した。「卒業後の進路・生活を見通した必要な力」から、「自己選択・自己決定ができる力」が重要になってくるのではないかという意見が挙がった。これは、平成28年度の研究において、就労継続支援B型施設事業所、生活介護事業所を対象に行った調査結果の「コミュニケーション面における身につけてほしい力」として意見が多く挙がっていた「自分の気持ちや考えを身近な人に伝えることができる」力に共通するものであった。

IV課程においては、「自己選択・自己決定」の力を高めるために必要となる基礎・基盤の概念形成を図る「算数/数学科」と考え、「自分で選ぶ、自分で決める」活動を重視し、小学部においては、まず「体験的活動や具体物を扱う活動を通して、対象物を捉え、受け入れる力」をつけていき、中学部においては、「対象物に注目して捉え、自ら関わる力」を、高等部においては、「小学部、中学部で学習したことを生活に生かし、発揮する力」をつけていくことを共通理解した。

#### 算数/数学科における各部段階で育てたい力

|     |   |
|-----|---|
| 小学部 | ○体験的活動や具体物を扱う活動を通して、対象物を捉え、受け入れる力<br>・いろいろなものに触れる経験を通して、好き嫌い、興味あるなしを表現する。<br>・物を捉える力、受け入れる力をつける。形の違い、上下・左右、いろいろな形を体験的に学ぶ。 |
| 中学部 | ○対象物に注目して捉え、自ら関わる力<br>・「気付く、見る」力をつける。提示されたものを見る、触ろうとする、対応させることなど。   |
| 高等部 | ○小学部、中学部で学習したことを生活に生かし、発揮する力<br>・小学部、中学部でつけた力を生活に生きる力として発揮する。机上でも形の違いや同じ形の弁別ができる。自分の好きなもの、したいことを選択する、など。                  |

#### (5) 次年度の教育課程及び年間指導計画作成

以上のような児童生徒像と、算数／数学科における育てたい力をもとに、小学部算数科の1段階の内容を12年間でどのように配列するかを協議した。学習する内容としては「数と計算」「図形」「測定」を扱っていくが、小学部1段階の中でも初期段階を目標とする児童生徒については、根底には常に「数量の基礎」をベースとして考えていくことを共通理解し、12年間の内容を配列して単元を組み直した(図1、資料2参照)。また、12年間の学びの中で、内容の配列を見たときに、小学部では知識・技能に関する内容が多くなっているのが、中学部、高等部に進むにつれて、思考力・判断力・表現力に関する内容が多く扱われるようになっており、学習指導要領小学部1段階の内容の学びが徐々に深まるような配列となった。

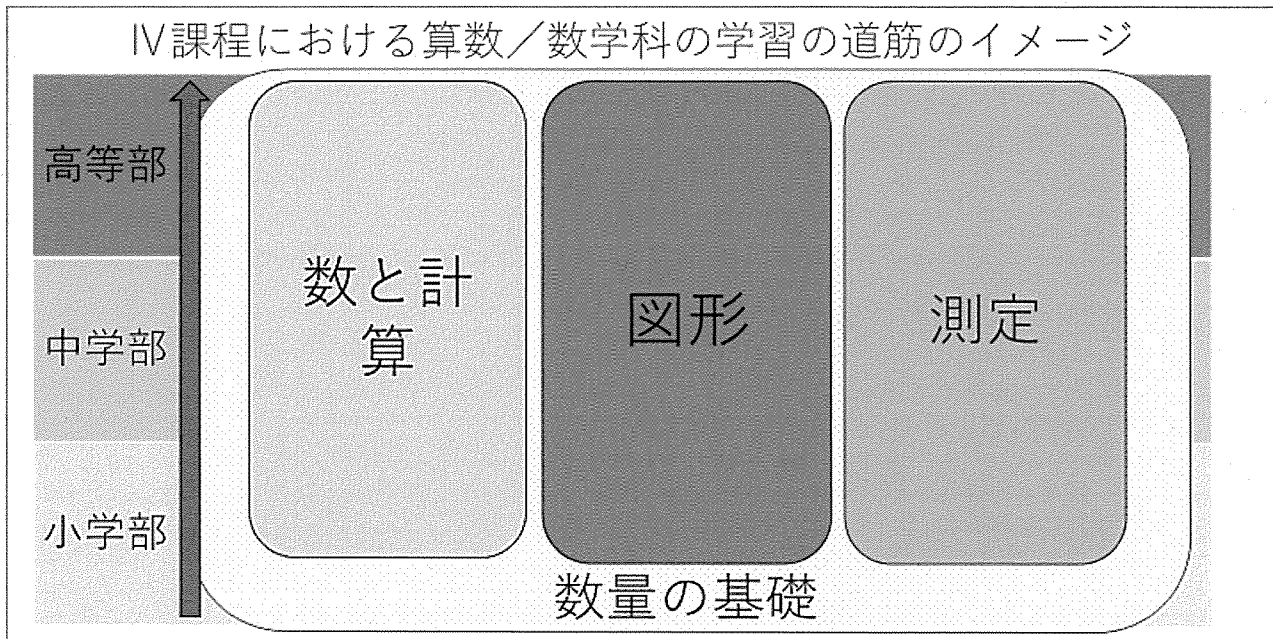


図1

#### 4 まとめと今後の課題

社会に開かれた教育課程の検討として、成果と課題を以下のように挙げられる。

##### 研究の成果

- ①単元別指導計画表を活用した授業研究会を通して、育成すべき資質・能力の三つの柱に基づく目標と評価について考えることができた。「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」の高まりから、「学びに向かう力・人間性等」が高まっていくことが協議できた。
- ②算数／数学科における卒業後に必要な力と各部で身につけたい力の検討をすることができた。「自己選択・自己決定」の力をつけるために、各部でつけたい力を考えることができた。
- ③授業評価の蓄積から、12年間で学ぶべき内容を整理できた。担任の力量や主観に左右されない、学校としての12年間のモデルカリキュラムを作成し、小学部・中学部・高等部の教職員間での共有化を図ることができた。
- ④幅の広い実態に応じることができるよう、小学部2段階の一部までの内容を学習する児童生徒には発展的な内容を設け、1段階の初期発達段階の内容を学習する児童生徒には、全ての学習のベースに「数量の基礎」があることを共通理解した。
- ⑤単元別指導計画表を基に、授業改善につながる授業研究会ができた。若手の教師からベテランの教師まで、全学級の授業参観(ビデオ)と協議をし、児童生徒観、指導観の違いをすり合わせ、

新たな視点に立つことができた。また、視野の広がりとともに、目標設定や評価、手立て等の授業改善へつながった。

#### 今後の課題

- ①指導時数について、授業実践と児童生徒の学習習得状況から、適切な指導時数について、他教科との関連も考慮しながら検討する必要がある。
- ②他教科との学習内容の関連についての検討を今年度は十分にできなかった。教科等横断的な視点から年間指導計画を再検討することが今後必要である。
- ③単元別指導計画表と個別の指導計画の関連について、検討を深めることができなかった。今後の課題である。



単元のつながりと見えてきた課題

小学部

| 月     | 4(2週)  | 5(4週) | 6(4週) | 7(2週)   | 9(4週) | 10(4週) | 11(週) | 2(2週)  | 1(3週)   | 2(3週) | 3(2週) | 年間授業時数 |
|-------|--|-------|-------|---|-------|--------|-------|--|---|-------|-------|--------|
| 行事    | 数量の基礎→図形   |       |       | 数量の基礎→数と計算  |       |        |       | 卒業式(1)   | 卒業式(1)  | 測定    |       |        |
| 各教科等  | 数量の基礎→図形   |       |       | 数量の基礎→数と計算  |       |        |       | 卒業式(1)   | 卒業式(1)  | 測定    |       |        |
| 算数(1) | いろいろなものに触れよう(12)<br>形や感触の違い(あわわわ、さざざら、べたべた など)<br>「さわってあそぼうあわわあひる」<br>数量の基礎ア |       |       | あるかな?ないかな?(8)<br>・いないいないばああそび<br>・どっちにしてくれたかな<br>数量の基礎ア |       |        |       | ころがれころがれ(6)<br>・注目する、目で追う<br>・触れる、押す<br>数量の基礎ア | つながようひろげよう(8)<br>・長さ、入りの表しに式付け<br>測定ア               |       |       | 34     |
| 算数(1) | いろいろなものに触れよう(13)<br>形や感触の違い(あわわわ、さざざら、べたべた など)<br>数量の基礎ア                     |       |       | あるかな?ないかな?(8)<br>・いないいないばああそび<br>・どっちにしてくれたかな<br>数量の基礎ア |       |        |       | ころがれころがれ(6)<br>・注目する、目で追う<br>・触れる、押す<br>数量の基礎ア | つながようひろげよう(8)<br>・長さ、入りの表しに式付け<br>「おおきくなった!」<br>測定ア |       |       | 35     |
| 算数(1) | いろいろなものに触れよう(13)<br>形や感触の違い(あわわわ、さざざら、べたべた など)<br>数量の基礎ア                     |       |       | あるかな?ないかな?(8)<br>・いないいないばああそび<br>・どっちにしてくれたかな<br>数量の基礎ア |       |        |       | ころがれころがれ(6)<br>・注目する、目で追う<br>・触れる、押す<br>数量の基礎ア | つながようひろげよう(8)<br>・長さ、入りの表しに式付け<br>測定ア               |       |       | 35     |
| 算数(1) | らべてみよう(13)<br>素材の違い<br>図形ア   |       |       | みつけた(14)<br>・持っていたものがなくな<br>数量の基礎ア                      |       |        |       | ぐる!コロちゃんはどこ?                                   | 探しよう(8)<br>測定ア                                      |       |       | 35     |
| 算数(1) | らべてみよう(13)<br>素材の違い<br>図形ア   |       |       | みつけた(14)<br>・持っていたものがなくな<br>数量の基礎ア                      |       |        |       | ぐる!たまごの絵本<br>かくれんぼ                             | 探しよう(8)<br>・光・イルミネーションの活用<br>測定ア                    |       |       | 35     |
| 算数(1) | らべてみよう(13)<br>好きなものを描き<br>素材の違い<br>図形ア                                       |       |       | みつけた(14)<br>・持っていたものがなくな<br>数量の基礎ア                      |       |        |       | ぐる!おめんです<br>かくれんぼ                              | 探しよう(8)<br>・光・イルミネーションの活用<br>測定ア                    |       |       | 35     |

内容は、図形につながる?  
指導時期はここでよい?

資料 1

中学部

| 月     | 4月(3週)            | 5月(4週)            | 6月(4週)           | 7月(4週)           | 12月(2週)                    | 1月(3週) | 2月(3週) | 3月(2週) | 年間授業時数 |
|-------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|----------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 行事    | 入学式               | 卒業式               | 春の遠足             | 避難訓練             | 形学席                        | 卒業式    | 卒業式    | 卒業式    |        |
| 各教科等  | 内容がわかる表記、単元名?     |                   |                  |                  |                            |        |        |        |        |
| 数学(1) | 丸い物や四角い物に注目しよう(6) | 丸い物や四角い物を目で追おう(6) | 赤い物や緑の物に注目しよう(6) | 赤い物や緑の物を目で追おう(6) | 大きい物や小さい物、長い物や短い物に注目しよう(8) |        |        |        | 35     |

測定の内容は3学期へ移動

光・イルミネーションはいらない。

高等部

| 月           | 4(3週) | 5(4週)      | 6(4週) | 7(2週) | 9(4週) | 10(4週)     | 11(4週) | 12(2週) | 1(3週) | 2(3週) | 3(2週)      | 授業時数 |
|-------------|-------|------------|-------|-------|-------|------------|--------|--------|-------|-------|------------|------|
| 行事          | 入学式   | 高等部<br>体育祭 |       | 終業式   | 始業式   | 高等部<br>文化祭 |        | 終業式    | 始業式   |       | 卒業式<br>修了式 |      |
| 日常生活の指導(17) | 595   |            |       |       |       |            |        |        |       |       |            |      |
| 生活単元学習(7)   | 245   |            |       |       |       |            |        |        |       |       |            |      |

どこでどの内容を扱うのか?  
「職業・家庭」の中の整理  
日生との関連

| 小学部              | 4   | 5 | 6 | 7 | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2 | 3 | 年間授業時数 |           |
|------------------|---|---|---|---|--|----|----|----|--|---|---|--------|-----------|
| 低学年<br>算数<br>(1) | 「あった！」(1、2年)<br>【数量の基礎】<br>○具体物に気づく、注目する<br>○諸感覚を活用して物を捉える<br>・いろいろな感触のものに触れる(ふわふわ、ざらざら、べたべたなど)             |   |   |   | 「いろいろなかたちに触れよう」<br>【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>○物へ注目し、諸感覚を活用してとらえる<br>○物の属性に着目し、同質なものや類似したものに気づく。<br>・いろいろな形に触れる<br>ごつごつ、つるつるしたもの<br>→身の回りのもの → 好きなもの、感触   |    |    |    | 「おおきい、ちいさい」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないを具体物を通して感覚的に気づく。<br>・ふくらむ風船<br>・ボールの大きさをくらべ                                      |   |   |        | 34<br>~35 |
|                  | 「あるかな?ないかな?」(3、4年)<br>【数量の基礎】○隠されたものを探す<br>【数と計算】○物の有無に気づく<br>・いないないばあそび                                    |   |   |   | 「どんなかたちかな」(丸、四角)<br>【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>○物へ注目し、諸感覚を活用して捉える。<br>○形を観点に区別する。(内容のみ扱う)<br>○似ている二つのもの(導入として扱う)<br>○身の回りにあるものの形(丸、四角等)<br>・形がにているもの、ちがうものを具体物で比べる<br>・形による動きをくらべて、違いに気づく。<br>・形の違いによる転がり方の違い |    |    |    | 「どっちがおおきい<br>どっちがちいさい」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないの違いがわかる(気づく)。<br>○長い短い、重い軽い、高い低いを感覚的に知る。<br>・魚つり(大きさの違う魚)<br>・積み木、箱積み |   |   |        | 35        |
| 高学年<br>算数<br>(1) | 「どこにかくれたかな」(5、6年)<br>【数量の基礎】○隠されたものを探す<br>【数と計算】○物の有無に気づく<br>○追視する<br>・かくれんぼあそび<br>・ころがるものや、トンネルを通る乗り物を目で追う |   |   |   | 「どんなかたちかな」(丸、四角)<br>【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>○物へ注目し、諸感覚を活用して捉える。<br>○形を観点に区別する。(内容のみ扱う)<br>○似ている二つのもの(導入として扱う)<br>○身の回りにあるものの形(丸、四角等)<br>・形がにているもの、ちがうものを具体物で比べる<br>・形による動きをくらべて、違いに気づく。<br>・形の違いによる転がり方の違い |    |    |    | 「どっちがおおきい<br>どっちがちいさい」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないの違いがわかる(気づく)。<br>○長い短い、重い軽い、高い低いを感覚的に知る。<br>・魚つり(大きさの違う魚)<br>・積み木、箱積み |   |   |        | 35        |

| 中学部       | 4  | 5 | 6  | 7 | 9  | 10 | 11  | 12 | 1   | 2 | 3  | 年間授業時数 |
|-----------|--|---|--|---|--|----|---|----|---|---|----|--------|
| 数学<br>(1) | 「探してみよう」<br>【数量の基礎】<br>○隠されたものを探す。<br>○追視する。<br>【数と計算】<br>○物の有無がわかる。<br>・友達を探す<br>・宝探し |   | 「同じ形を見つけよう」<br>【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>○物へ注目し、諸感覚を活用して捉える。<br>○形が同じものを選ぶ。              |   | 「数を知ろう」<br>【数量の基礎】<br>○物と物との対応<br>【数と計算】<br>○体験的に1、2とたくさんに気づく。<br>○5までの数唱<br>・マークに合わせてなべる<br>・みんなに配る<br>・数の違いに気づく<br>・数をかぞえる |    | 「仲間分け」<br>【図形】<br>○身の回りにあるものの形(丸、三角、四角等)<br>○身の回りにあるものの形を図形として捉える<br>○物を色や形、大きさ、目的、用途、機能に着目し、分類する<br>○形に着目して集める<br>・身近な丸、三角、四角のもの探し<br>・型はめ |    | 「比べてみよう」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないの違いがわかる。<br>○重い軽いの言葉を知り親しむ。<br>・重さ比べ     |   | 35 |        |
|           |  |   | 「同じ形を作ろう」【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>○物へ注目し、諸感覚を活用して捉える。<br>・形を粘土で作る                       |   |  |    |   |    | 「くらべてみよう」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないの違いがわかる。<br>○高い低いという言葉を知り親しむ。<br>・高さ比べ  |   |    |        |
|           |  |   | 「同じ形を集めよう」<br>【図形】<br>○物への気づき、リーチング、追視<br>物へ注目し、諸感覚を活用して捉える。<br>○同じもの集合づくり<br>・同じ形探し、同じ形集め |   |  |    |   |    | 「くらべてみよう」<br>【測定】<br>○大きい小さい、多い少ないの違いがわかる。<br>○広い狭いという言葉を知る、親しむ。<br>・広さ比べ |   |    |        |

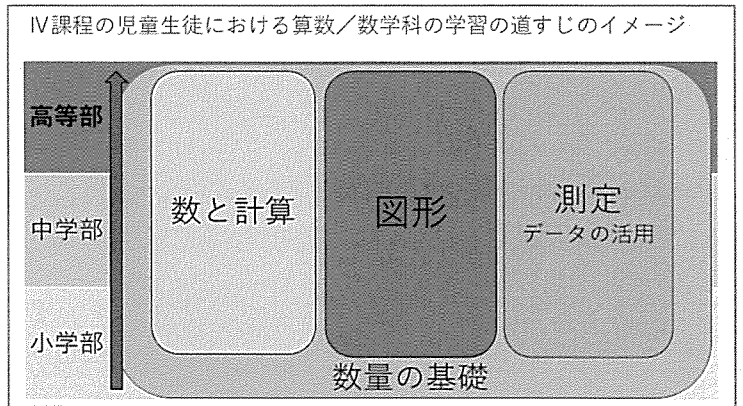
※今までの学習を生かし、卒業後の進路での仕事としての作業や、余暇活動をイメージした学習活動を中心とする。

| 高等部 | 4   | 5 | 6   | 7 | 9  | 10 | 11  | 12 | 1   | 2 | 3 | 年間授業時数 |
|-----|---|---|---|---|--|----|---|----|---|---|---|--------|
|     | 「数に親しもう①」<br>【数と計算】<br>○3までの数量概念。<br>○対応させてものを配る。<br>○形や色、位置が変わっても、数は変わらないことに気づく。<br>・〇〇配り<br>・マークに合わせて並べる。 |   | 「仲間集めをしよう」<br>【図形】<br>○物の属性に着目し、同質なものや類似したものに気づき、日常生活の中で関心をもつ。<br>○物と物との関係に注意を向け、ものの属性に気づき、日常生活で生かす。<br>○色や形、大きさに着目して分類する。<br>・同じ色や形、大きさで仲間分けをする。 |   | 「数に親しもう②」<br>【数と計算】<br>○3までの数量概念。<br>○対応させてものを配る。<br>○形や色、位置が変わっても、数は変わらないことに気づく。<br>・〇〇配り<br>・マークに合わせて並べる。<br>・答えはいつも3(さん)ゲーム |    | 「同じ形、似た形を見つけよう」<br>【図形】<br>○物の属性に着目し、同質なものや類似したものに気づき、日常生活の中で関心をもつ。<br>○形が同じものを選ぶ。<br>○同じものの集合づくりをする。<br>・身近なものの中から、同じ形を集める。<br>・クッキーの型抜きなど |    | 「比べて遊ぼう」<br>【測定】<br>○大きい小さい、長い短い、重い軽い、高い低い広い狭い等の違いに気づき、自ら対象物と関わる。<br>○どちらが大きい、どちらが多いなど比べてゲームの勝敗に気づく。(余暇活動をイメージしたゲーム的活動)<br>・ボウリングなど |   |   |        |

わかくす部門小学部・中学部・高等部 IV課程 算数/数学科  
年間指導計画の運用に関する留意事項

1 年間指導計画はスタンダードモデルとして作成している。

- 2段階の一部までの内容がわかる児童生徒については、教えるべき内容がスタンダードで不足する場合は、3の内容表を活用する。
- 1段階の初期段階の内容がわかる児童生徒については、内容は2段階の一部まで「数と計算」「図形」「測定」として扱うが、根底には「数量の基礎」がある。目標はあくまでも1段階の初期段階（〇〇に気づく）である。



2 授業をする際の留意事項

- 年間指導計画に記載している学習活動は例示であって、必ずしなければいけないものではない。
- 「自己選択・自己決定」の力を高めるための概念形成を図る「算数/数学科」であるため、初期段階の内容の中でも、「自分で選ぶ、自分で決める」活動を重視し、現在・将来の生活に必要な力という視点での授業づくりをする。
- 繰り返しの学習で学びの定着化を図る。
- 集団での学習においては、学級の児童生徒の実態差を前提としながら、共習することを大切にする。一方で、必要に応じて、個別の学習を行うことも検討する。

3 発展的な学習内容について：年間指導計画には記載していない発展的な内容（小学部2段階まで）

|        |  |
|--------|--|
| 数と計算   | 【10までの数え方や表し方、構成】 知物の個数、同等・多少、物の集まりと数詞・数字、数える、書き表す、2つの数の大小、数の系列、0の意味、一つの数の合成・分解、加法・減法・集合数、10の補数 思数詞と数字・物との関係、数の数え方、数の大きさの比べ方・表し方                 |
| 図形     | 【ものの分類】 知身近なものの目的・用途・機能での分類、縦や横の線・十字・△や□、形の属性での分類、集合   |
| 測定     | 【身の回りにある具体物の量の大きさ】 知長さ・重さ・高さ・広さの量の大きさ、二つの量を相対的に比べる、長い短い・重い軽い・高い低い・広い狭いの用語 思量を一方を基準にして比べ、用語を用いて表現する   |
| データの活用 | 【ものの分類】 知目的・用途・機能に着目して分類、ものの同等・多少、○×を用いた簡単な表、簡単な表で使用する記号の意味 思身近なものの色や形・大きさ・目的・用途の共通点・相違点で分類、物の個数に着目して絵グラフなどに表す、多少を読み取って表現、身の回りの出来事を○×を用いた簡単な表で表す |